

平成29年度 長与南小学校評価（共通の評価項目）

1 共通項目

長与町立長与南小学校

項目	重点目標及び取組内容	評価	分析及び改善策
かしこい頭を	<p>確かな学力の育成</p> <p>①基礎基本の習得と活用力の伸長</p> <p>②目標やめあてを明確にした学習</p>	3	<p>○昨年度研究発表会を終え、今年度は研究の新たなスタートの年となった。これまでの長与南小学校の研究を土台にしながら、今一度児童の実態調査を行い、長与南小学校の児童に今何が必要なのか理解を深め、研究主題の改善を図った。学年での授業研究、全体での公開授業等、授業実践を繰り返すことで、対話的で協同的な深い学びを実現する児童の姿を目指すことができた。</p>
	<p>指導力の向上</p> <p>①分かりやすい授業の展開</p> <p>②言語活動を取り入れた授業</p>	3	<p>○常にめあてとまとめのある授業構成を行い、それを繰り返すことで、児童に学び方を身につけさせ、主体的に学習に取り組めるようにしている。教師自信も指導者を招聘した研修を行うことで、やりたい授業の前に、やらなければならない授業があるへの意識が高まった。そのため当該学年で児童に身につけさせなければならない指導事項を意識した授業づくりに取り組むことができた。</p>
やさしい心を	<p>基本的な生活習慣の定着</p> <p>①あいさつなど基本的な生活習慣の確立</p> <p>②きまりやルール，約束を守る学校生活</p>	4	<p>○3つのめあて（あいさつ，いじめ0，黙々掃除）の徹底に全職員で取り組んだ。1年間の継続的した指導により、元気な挨拶、進んで挨拶、ワンストップ挨拶、名前をつけた挨拶等、校内においては、発達の段階に応じた挨拶の習慣が身につけてきている。</p> <p>○月ごとの生活の目標を見直す機会が確保されているため、学校目標に対する形成適評が行われ、児童の指導に生かされている。積極的な生徒指導により、事前に大きなトラブルを回避する指導ができた。校内で児童同士のトラブルや保護者からの問い合わせがあったときも、それをきっかけにして、よりよい協力体制を導き出す校内体制が整ってきている。</p>

<p>心の教育の充実</p> <p>①充実した道徳授業の実践</p> <p>②命の教育や読書活動への取組</p>	<p>3</p>	<p>○年間35時間の道徳の授業時間を確実に確保している。道徳の授業を道徳教育の要と位置づけるとともに、学年主任を中心に、横のつながりを大切にしながら児童理解を深め、多くの教師が関わり合って、児童の学習指導や生活指導に当たる意識の統一と指導体制ができたことは、今年度の大きな成果である。特別支援教育や専門機関とも密接に連携し、児童の困り感を改善できたことも心の教育の充実に大きく寄与している。</p> <p>今年度も「読書年間一人低学年150冊，中学年120冊，高学年80冊」を合い言葉に，図書部会を中心に，年に3回読書月間を設け，読書ビンゴなどの活動をとおして興味・関心を高めている。多くの児童にすでに読書をする習慣が身についているため、今年度着任した教師が担任する学級においても概ね例年通りの読書量が確保された。</p>
<p>豊かな人間関係づくり</p> <p>①いじめや差別のない学級づくり</p> <p>②居り甲斐、学び甲斐のある学級</p>	<p>3</p>	<p>○なかよしアンケートの毎月実施や児童観察により，いじめの早期発見や迅速な対応に努め，早期解決を図っている。本校の教育活動の特色として、特別支援教育が挙げられる。特別支援学級をはじめ、通級教室、教育相談等々が日常的に行われ、当該児童のみならず、周りの児童・保護者の理解も進んでいる。今年度も、地区を主体とした「縦割り活動（遊び）」を行った。さらに創立30周年記念式典等の学校行事を、児童の思いを大切にすることにより、自主性や主体性が発揮され、自己肯定感を育てることができた。</p>
<p>たくましい身体を</p> <p>基礎体力の向上</p> <p>①「徒歩通学」「おはようランニング」「外遊び」「全員遊び」による自主的な体力づくり</p> <p>②集団生活・集団行動に応じた行動様式の定着</p>	<p>3</p>	<p>○基礎体力向上のため，全校児童で週2回ランニングと長縄跳びに取り組んだ。小体連や持久走記録会は、児童の意思を尊重するとともに、計画的に記録をとり、練習の成果を実感させることにより、主体的に運動に取り組むよい機会となった。朝の始業前、昼休みと多くの児童がよく外遊びをしている。担任と一緒に遊んでいることが一つの要</p>

			<p>因と考える。</p> <p>○集団生活・集団行動を育てる基本は学級にあり、日常生活の中で伸ばしていかなければならないと共通理解を図っている。若い教師が多いだけに、指導力には差があることは事実である。何をどのように指導しなければならないかを学ばせていかなければならない。</p>
	<p>健康・安全教育の推進</p> <p>①交通安全・不審者対応など安全教育の取組</p> <p>②「五ざる運動」など健康的な生活習慣の定着</p>	3	<p>○交通安全・不審者対応共に、学級での指導に加え、プリントによる注意喚起や見守りボランティア・警察との連携を行った。見守りボランティアの保険等、誰もが無理なく参加できる体制を整える動きができた。来年度目に見える形でその充実を図っていく。</p> <p>○「五ざる運動」には学校保健員委員会での重点テーマとして取り組んだ。調査回収率がとても高いこと、少なくともこの調査期間は、早寝早起き朝ご飯やメディアの視聴時間への意識が高まっている結果が出た。継続することで家庭での健康に対する意識の改善がみられると学校校医からもよい評価をいただいた。</p>
情報発信と連携	<p>広報活動の充実</p> <p>①教育活動の目的，成果などの情報発信</p> <p>②児童の継続観察と成長や課題の整理</p>	3	<p>○学校だよりや学級通信，校内の掲示等で子どもの良さや活躍を情報発信した。担当教員を決め、月1回はホームページの更新を心がけている。児童生徒の定期的な情報交換を行うとともに、必要に応じて校内委員会を開き児童への対応を協議することができた。教職員への情報発信が、教職員間とともに保護者との連携にも良い効果が出た。</p>
	<p>保護者・地域との連携</p> <p>①家庭や地域に開かれた学校づくり</p> <p>②PTAやおやじの会，図書ボランティア，学校支援会議との連携</p>	3	<p>○児童に関する情報と困り感の共有を基本とし，学校と家庭が迅速かつ丁寧な連絡相談を目指してきた。図書ボランティアによる読み聞かせや環境作り，おやじの会による奉仕活動も継続的に行っている。</p>
学校運	<p>教育環境の整備</p> <p>①ユニバーサルデザインの視点を取り入れた教育的な環境の整備</p> <p>②校舎内外施設設備の安全確保</p>	3	<p>○校内研修「学習環境整備部」を中心に前面掲示の撤去や机上・棚など教室環境を整え，学習に集中できるようにした。月1回の安全点検を行い，迅速に</p>

営 全 般			補修するなど，施設設備の安全確保に努めている。
	<p>特別支援教育の充実</p> <p>① 児童理解と一人一人に応じた指導の充実</p> <p>② 校内外組織とのネットワークの構築と学校組織としての一丸となった対応</p> <p>③ 知恵を集め，力を合わせようを合い言葉にした職員間の協力</p>	4	<p>○ 校内委員会を組織し，特別支援教育コーディネーターを中心に要支援児童に対して，SCや特別支援学校，医療など関係機関との連携を図りながら組織的に対応し，個に応じた支援が充実してきている。「様々な知恵を集め，様々な力を合わせよう」を合い言葉に学校組織をあげて，全職員で協力しながらの学校運営に努めている。</p>